

殺虫剤それぞれの特長を理解して、上手に害虫を防除しましょう。

より品質の高い作物を作るうえで、殺虫剤の使用による害虫防除は必要不可欠なものとなっています。では、殺虫剤ならどれを散布しても効果は同じでしょうか?必ずしもそうではありません。ひと口に殺虫剤と言っても、多くの製品が販売されており、それぞれに特長があります。薬剤の特長を理解することは、より効果的な害虫防除を実現できます。以下に、3つの殺虫剤の特長をご紹介します。

(カーバメート系殺虫剤)

ランナート[®]45DF

しみこむ 葉表から裏まで、優れた浸透性により葉裏にかくれた害虫までしっかり防除。

ひろい 卵から成虫まで効果があり、幅広い作物の幅広い害虫に効果を発揮。

はやい きわめて速効性。分解も早く、残留のリスクも小さい。

(オキサダイアジン系殺虫剤)

トルネード[®]フロアブル

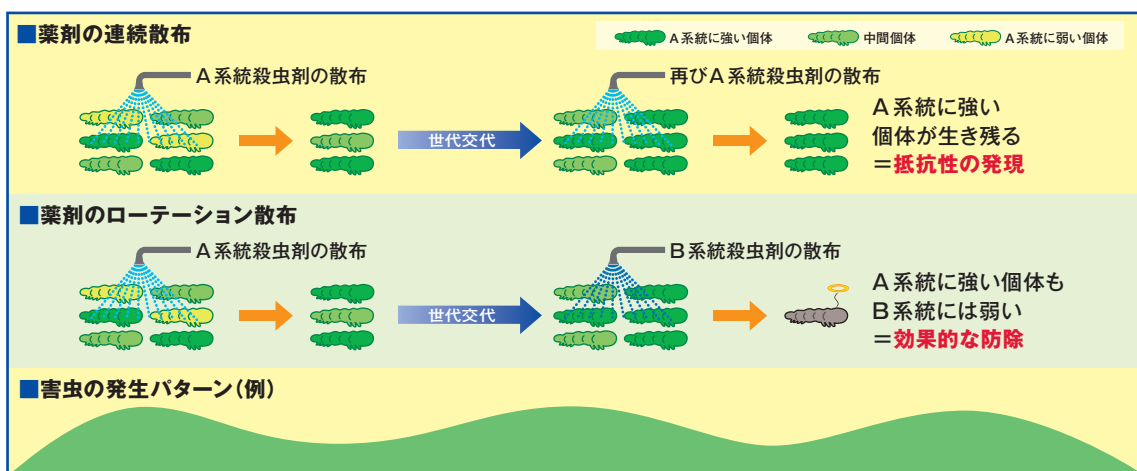
- チョウ目害虫の若齢～老齢まで、齢期を問わず高い効果。
- 適用作物に対し安全性が高いため、育苗期の防除にも有効。
- ウワバ、ヨトウムシなどの大型チョウ目に高い効果。

(ジアミド系殺虫剤)

プルバトン[®]フロアブル5

- 苗への灌注処理で約4週間、散布では約2週間の長い残効。
- チョウ目害虫の若齢～老齢まで、齢期を問わず高い効果。
- 浸透性により葉裏の害虫にも安定した効果を発揮

また、系統の異なる殺虫剤をローテーション散布することは、害虫の抵抗性発達リスクを低減することにもつながります(模式図参照)。異なる系統の殺虫剤を正しく使って、上手に害虫を防除しましょう。



デュポン株式会社 農業製品事業部

お問い合わせは、デュポン農業製品情報センターへお願いします。

FAX 03-3549-1819 e-mail news@dupont-info.jp

〒104-0045 東京都中央区築地3-7-10 JS築地ビル5F

※情報提供の目的で弊社よりダイレクトメールを送送しております。ご不要の場合はお手数ですがデュポン農業製品情報センターまでご一報ください。



The miracles of science